進路指導部便り

令和７年２月 28 日
第８号
東京都立七生特別支援学校長
黒澤　一慶

２月も終わりを迎え、暖かな日差しに春の訪れを感じる頃となりました。令和６年度もいよいよ残すところあと １ ヶ月となりました。今回は、「高１インターンシップの報告」、「進路指導に関する日野市との連携」について掲載しております。

高１インターンシップの報告

令和７年１月 16 日（木）から２月下旬まで、高等部 １ 年生はインターンシップに参加をしました。

１ 年生は卒業後の進路先を「知る」というテーマで １ 年間学習をしてきました。その中で、１ 学期は進路先見学を通して、「見て知る」、そして今回のインターンシップでは、「体験して知る」を実践しました。

学校以外の始めての場所で２日間の体験をするために、職業の時間を中心に、目標設定、日誌記入、面談練習、通勤経路確認、壮行会等の多くの準備を行ってきました。インターンシップを楽しみにする生徒と初めてのことに不安になる生徒がいましたが、体験から戻ってくると、それぞれが感じたことを教えてくれました。実際の生徒の声としては、「ダイレクトメールができた」、「学校とは違う手順でもしっかり覚えることができた」、「七生の先輩が優しく教えてくれた」、「食堂で先輩と美味しい給食を一緒に食べられた」、「通勤が心配だったが、一人で行けた」等がありました。

今回の経験を今後の進路選択に生かしていけるよう、今後も指導していきたいと思います。

進路指導に関する日野市との連携について

障害者保健福祉に関する日野市主催の会議は、「自立支援協議会（本会）」、「就労支援部会（分会）」、「日野市障害者就労支援ネットワーク」の３つがあり、進路担当が参加をしています。

今年度は、上記の日野市主催の会議の他に、学校主催の「日野市内福祉事業所連絡会」を実施しました。連絡会には、市内の福祉事業所の管理者の方や日野市役所障害福祉課長はじめ８名の職員の方に御参加いただきました。当日、残念ながら欠席となった事業所もありましたが、事前アンケートでは全事業所に参加いただけることとなっており、連絡会に対する関心の高さを感じることができました。

当日は、各事業所からの状況報告と学校からの児童・生徒情報の共有を行いました。

各事業所から共通の話題として挙がったのは、「人材（職員）不足」と「利用者の高齢化」でした。人材不足は、福祉分野に限ったことではありませんが、障害者の方が安心・安全に活動を行う上で、職員の適切な配置は欠かすことができないため、大きな課題として捉えていました。日野市は明星大学と連携した移動支援従事者研修を行うなど、人材育成と確保に向けた取組みをしていますが、厳しい状況は続いていることが分かりました。利用者の高齢化の中で、障害分野と介護分野のサービスを併用される方も出てきているそうです。利用者の高齢化＝親の高齢化となるため、グループホームや入所施設に移行される方もいるそうです。この点においては、事業所の定員に変化が出ることも想定されるため、学校として新しい情報を得ていく必要があると感じています。

本校からの児童・生徒情報の共有では、進路指導主任の粕谷より児童生徒数や今後の各通所型の福祉サービス利用者数の見立て、保護者のニーズをお話させていただきました。毎年、卒業生を送り出す本校として、今後の卒業者数を知っていただくことは、市の政策への反映だけでなく、各事業所の中・長期計画にも生かしていただける重要な情報となると考えています。

連絡会は、来年度以降も実施する予定です。今後も保護者の方の声を届けるとともに、学校・日野市役所・福祉事業所が協力・連携して、児童生徒の進路指導、進路選択をしていけることを目指していきます。